



# たんぽぽ

戸田市立喜沢小学校

令和8年2月2日

2月号

【学校教育目標】

「夢と希望をもち、  
よりよい社会づくりに向け  
行動する児童の育成」

## 一人一人が「好きを増やし、得意をのぼす」学習を

校長 加藤 貴嗣

先日、開催された戸田市小・中学校児童生徒プレゼンテーション大会において、学校を代表して出場した3名の6年生は、「勉強が苦手、嫌いという気持ちをなくして、勉強を楽しくしよう、勉強好きを増やそう、学校生活を幸せにしようという『勉強マシンプロジェクト～自分の学びへ～』に取り組んできました。

この活動を通して、「人の喜びを自分の楽しさにつなげる」「自分の好きに近づける工夫をする」「自分が熱中（没頭）できる」と勉強が楽しくなることに気がつきました。

そして、これから大事なことは、自分のやりたいを大切に自分の学びを進めていくことなのではないか、自分の好きを広げる自主学習にすることができないかと考えました。

この課題を解決するために試行錯誤した結果、好きや興味を広げるには、「仲のよい人と対話するだけでは自分の世界は広がらない」、「同じ興味をもった人と関わることで、自分の見方が広がる」、「一人より二人、みんなと。知ろう、広げよう、自分を」と考え、年齢、性別に関係なくいろいろな人と関わることで、「自分の好き」がわかり、自分を知ることができるといった答えにたどり着いていました。

勉強を好きになる、学校生活を幸せにするといった問いに正解はありません。正解のない問いの答えをあきらめずに考え続けたことが素晴らしいと思います。3つの大切「自分から考えて行動しよう」「自分もみんなも大切にしよう」「あきらめないでやりきろう」の姿が現れていました。代表の児童だけでなく、6年生一人一人に、自分がどのようになりたいのか、自分たちの学級をどのようになりたいのか、そのために自分は何をするのか考えようとする気持ちが高まってきているように感じます。このような芽を大切に育てていくことが、子供たちの「自らの人生を舵取りする力」や「民主的で持続可能な社会の創り手となる力」を伸ばしていくことになると考えています。

そして、そのような力を支える土台となる学力の向上を図るため、より質の高い授業、誰一人取り残されない学びを実現するため、これまでの一斉型授業から「個別最適な学び」と「協働的な学び」を組み合わせた授業づくりを進めています。

「個別最適な学び」とは、一人一人の興味や理解度に応じた学びを実現することです。例えば、自転車の練習でも、すぐに乗れる子もいれば、補助輪が必要な子もいるように、学び方のペースはそれぞれ異なります。タブレットやデジタル教材を活用することで、子供たちは自分のペースで学び、わからない部分を繰り返し学習することができます。

「協働的な学び」は、友達と意見を交わし、共に学び合う学びです。例えば、料理をするときに、一人で作るよりも、材料を分担したり、アイデアを出し合ったりすることで、よりおいしい料理ができることがあります。これまでの授業では、教師が主導する形が多かったですが、今後は子供が主体的に考え、話し合いながら深い学びをつくることが重視されます。

そして、「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、どちらか一方を重視するのではなく、両方を一体的に充実させることが大切です。個々の力を伸ばし他者と共に学び合うことで、より深い学びを実現していきます。

6年生がたどり着いた、「自分の学びをよりよいものにするために、一人より二人、みんな。」を実現できるカリキュラム、ICTを活用しながら、教師や仲間と関わる機会を設けることで、学びの質を向上させて授業の実現を目指してまいります。今後とも皆さまのご理解とご協力をたまわりますようお願いいたします。